



Hokkaido Lifelong Learning Association

ほっかいどう 生涯学習 Lifelong Learning

ホームページアドレス <http://www.hsgk.jp>

新しい自分との

出会いや発見がきっとある



(写真提供 三原和廣氏)

(撮影地 安平町)

目次

●平成25年度「第1回理事会・評議員会開催」……	2	●私の生涯学習……	5
●これからの生涯学習を展望して……	3	●「かでの講座」のお知らせ……	5
●わがまちの生涯学習……	4	●随想22……	6

協会の名称変更について

平素より、当協会の事業につきまして、ご支援・ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。
 さて、この度、当協会は、北海道知事より公益財団として認定を受け、平成25年4月1日付けで、名称を「公益財団法人北海道生涯学習協会」に変更いたしました。
 今後も、生涯学習社会の実現に向けた事業展開を行い、北海道の発展に寄与して参る所存でございますので、一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人北海道生涯学習協会 会長 宇田川 洋

平成25年度第1回理事会・評議員会開催

5月29日理事会、6月11日評議員会がそれぞれ開催され、「平成24年度事業報告」及び「平成24年度収支決算、監査報告」が審議され承認されました。

また、評議員会では、山田伴一理事及び吉田智樹評議員の5月31日付け辞任に伴う補充選任（案）が原案どおり承認されました。

役員・評議員紹介

- ・会長 宇田川 洋 (東京大学名誉教授)
- ・副会長 中田 和子 (北海道女性団体連絡協議会会長)
- ・ 鈴木 文男 (北海道社会教育委員連絡協議会会長)
- ・専務理事 宮内 敏文 ((公財)北海道生涯学習協会事務局長)
- ・理事 永井 扶 (北海道新聞社事業局事業センター長)
- ・ 松藤 藤吉 (北海道公民館協会会長)
- ・ 国貞 泰生 (北海道放送株式会社編成局長)
- ・ 若狭 弘樹 (北海道文化団体協議会事務局長)
- ・ 善養寺 圭子 ((公社)北海道家庭生活総合カウンセリングセンター副理事長)
- ・監事 高崎 盛雄 ((一社)北海道子ども会育成連合会常務理事)
- ・ 広部 公聡 ((株)北海道銀行地域振興・公務部長)
- ・評議員 江本 嘉敏 (北海道高等学校日本史教育研究会顧問)
- ・ 遠藤 知恵子 (北翔大学名誉教授)
- ・ 小山 忠弘 (ふるさと再生塾塾長)
- ・ 藤野 真一郎 (北海道社会教育主事会協議会副会長)
- ・ 高倉 嗣昌 ((公財)ふきのとう文庫理事長)
- ・ 瀧上 春男 ((公財)北海道青少年育成協会専務理事兼事務局長)
- ・ 前田 和道 (日本ボーイスカウト北海道連盟副理事長)
- ・ 宮崎 博美 (北海道国際女性協会副会長)
- ・ 宮崎 善昭 (北海道YMCA 総主事)
- ・ 矢代 浩子 ((一社)ガールスカウト日本連盟北海道支部副支部長)
- ・ 山本 富造 (北海道高等学校PTA連合会副会長)

平成24年度収支計算書総括表

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

(単価：円)

科 目	一 般 会 計	道立生涯学習推進センター事業受託特別会計	北海道スポーツ推進委員協議会事業受託特別会計	内部取引消去	合 計
I 事業活動収支の部					
1 事業活動収入					
① 基本財産運用収入	10,018				10,018
② 事業収入	1,326,000				1,326,000
③ 受託事業収入	0	38,499,300	1,030,000		39,529,300
④ 会費収入	1,374,000				1,374,000
⑤ 補助金収入	5,668,000				5,668,000
⑥ 寄付金収入	200,000				200,000
⑦ 雑収入	30,000	1,200			31,200
⑧ 繰入金収入	1,676,653			△ 1,676,653	0
事業活動収入計(A)	10,284,671	38,500,500	1,030,000	△ 1,676,653	48,138,518
2 事業活動支出					
① 管理費	5,046,084		180,000		5,226,084
② 事業費	7,164,500				7,164,500
③ 受託事業費支出		37,673,847			37,673,847
④ 繰入金支出		826,653	850,000	△ 1,676,653	0
⑤ 基本財産返納支出	10,000,000				10,000,000
事業活動支出計(B)	22,210,584	38,500,500	1,030,000	△ 1,676,653	60,064,431
事業活動収支差額(A)-(B)	△ 11,925,913	0	0	0	△ 11,925,913
II 投資活動収支の部					
1 投資活動収入					
基本財産取崩収入	10,000,000				10,000,000
投資活動収入計(C)	10,000,000	0	0	0	10,000,000
2 投資活動支出	0				0
投資活動支出計(D)	0	0	0	0	0
投資活動収支差額(C)-(D)	10,000,000	0	0	0	10,000,000
III 財務活動収支の部					
1 財務活動収入					
借入金収入	3,000,000				3,000,000
財務活動収入計(E)	3,000,000	0	0	0	3,000,000
2 財務活動支出					
借入金返済支出	3,000,000				3,000,000
財務活動支出計(F)	3,000,000	0	0	0	3,000,000
財務活動収支差額(E)-(F)	0	0	0	0	0
当期収支差額	△ 1,925,913	0	0	0	△ 1,925,913
前期繰越収支差額	9,237,771	0	0	0	9,237,771
次期繰越収支差額	7,311,858	0	0	0	7,311,858

「これからの生涯学習を展望して」

道民カレッジ・フレンズ十勝

会長 金田英男

「信頼関係」と「絆」については古今東西を問わず基本中の基本に変わりはないと思います。テンポの速い時代になったとか、いや時代が云々とよく耳にするのだが、我々を取り巻く環境も「高齢化社会」に入り決して安心できるものでもない。現在問われている大きな問題点（独居、いじめ、DV、など）もあります。

展望を含めて次代へつなぐ「人づくり」にどうしたらクリアできるのでしょうか、経験から順を追って述べたいと思います。①企画力を発揮できる雰囲気づくり。②新しい発想は直ぐそばにある（小事は大事）。③情報交換に親しみを（灯台下暗し）。④反省と人づくり。⑤趣味を生かす術を広げる。

フレンズ十勝と共に歩んだ経験からスタートします、「信頼関係」と「絆」ですが、まず責任ある立場にいる人は結果を恐れず、絶えず挑戦する気持ちが無くてはいけません、たとえ無理でも少しずつでもいい、着実に前進することが必要です、支えとなる人は幅広く理解する経験から輪を広げてくれるからです。例えば道民カレッジ大学放送講座(DVD講座)をゼミ形式で実施したのは道内ではフレンズ十勝が最初です。責任あるリーダーが、講師と受講生の二束のわらじを履いて後継者を育てた。(受講生が講師に)

その経験者が徐々に力をつけて今ではいつでも2時間講師も出来る努力家に成長しました(背中を押してあげることが大切)あとは話術と知識と経験が応えてくれます。(人材育成)①フレンズ十勝の講座は充実を図るため、講座開始60分位前から早めに講義会場に入場可能、話題の交流を勧める事が大切で会員は話題を期待して早く来場しています、参加して楽しめる講座づくりをめざしています②自分達で工夫や発想の転換を含む企画案を基本にして絶えずスクラップ&ビルドを描く。(考えを直接きく方法、アンケートは真実性に若干乏しく、特に上から目線は注意する)

③絶えず相手の得意な趣味や興味深い共通した話題を情報交換する。④積み重ねる努力が必要です、そして相手に自信を持たせること。(失敗は成功の元・駄目で元々)⑤趣味の話題は夢があって楽しいもの、その中でどう対応すれば皆で楽しめるかを考える。

「かざりづくり(ペットボトル使用)・絵手紙・葛飾北斎の画集講座・富岳三十六景含む・登山・ジョギングコースなどを講座の(レシピ)中に入れると雰囲気が変わるし講師の自信にもつながる」。一例、『金田式バス学習』:見る・聞く・書く(画く)

「事前学習日・旅行日・見返り学習日⇔3回実施」(講師は正確な資料を収集しレジメに)

とかちの歴史を訪ねて、金田式バス学習(シリーズ化)すでに陸別町・広尾町・浦幌町を終えた、森林に関連して富良野市山部町東大演習林も終了、地元(とかち)の歴史を知ることから勉強する、関心度が高く参加者が多い、アイヌ民族との交流・開拓者の苦悩・自然・極寒との生活対応など。

結びとして、札幌から道内の道民カレッジ生に発信した「かでの2.7で講師、フレンズ十勝から佐藤顧問・内田副会長・白木会員」その経験をフレンズ十勝の会員と共に慶び合いました。貴重な経験を道内で情報交流の機会を増やしたい、昨年は札幌市の6000単位取得者「榎本聡子」氏の帯広市での講座は大盛況でした、その後アンコールの声が非常に高いのです。「興味深いのは標津きりり大学制度です」

平成25年度のフレンズ十勝の目標を「学びへの原点にしたい」と決め既にスタートした。『私たちは道民カレッジ生として学べることに誇りを持っています』

わがまちの生涯学習

檜山管内厚沢部町教育委員会

教育長 中井文夫

厚沢部町は、現在人口が4,376人という小さな町であるが、総面積の82%を森林が占めており、ヒバや五葉松の北限、トドマツの南限ということもあり、学術的にも貴重な存在でもある。進行する過疎化に歯止めをかけられないが、「世界一素敵な過疎のまち」をメインスローガンに、「子育て支援」を中心に人づくりを基本にした積極的な町づくりを進めており、生涯学習もその役割の一端を担い、様々な事業を進めている。

1. 読み聞かせ活動

絵本を通して、赤ちゃんと保護者が、言葉と心を通い合やす時間を作ることを目的としたブックスタート事業を出発点にし、ボランティアサークルによる読み聞かせ会、図書館おはなしまつり、クリスマス会、ALTによる英語の読み聞かせ会等を通して読書活動の下地を育てている。



また、読書活動の拠点となる図書館では、蔵書の充実や管理を図り、町内の各小中学校との連携を図ったり、移動図書館バスの活用など、読書環境の整備を積極的に進めると共に、ロビーコンサートを開催するなど、町民の憩いの場となる図書館の環境整備を図っている。

2. 少年少女体験教室

「茶道体験子ども教室」、「囲碁体験教室」、「鮎釣り体験教室」、「レク森観察会」、「文化芸術鑑賞会」等の活動を通して、地域の自然や文化、歴史などに触れることで子どもたちの感性を磨くと共に地域を愛する気持ちを育てている。また、友達同士や家族等の様々な年齢層の参加の中で、相互のコミュニケーション能力を高めている。

3. 高齢者学級事業

65歳以上の方々が総人口の36%を占める事から、高齢者が生きがいのある生活を過ごすために必要な教養を広げたり、技術を習得するとともに、仲間作りの機会を広げ、心豊かな生活を確立する事を目的に取り組んでおり、年間4回の高齢者学級を開催している。

学習内容は演劇・音楽鑑賞、文化講演会、視察研修、交通安全体験など多岐にわたるが、常時100名を超える参加者があり、高齢者相互の連帯感を深めるとともに、それぞれの地域や個々の日常の活動を盛り上げ、様々な場面での積極的な社会参加を促す働きをしている。

4. 文化、スポーツ活動の支援

町内には30の文化活動サークル（文化協会）と12のスポーツ活動団体があり、それぞれが日常的に自立した活動ができるようサポートしている。各団体は文化祭での発表や各種の大会への参加などの目標を持って意欲的に活動している。

年間数回の音楽会を開催したり、全道規模のバレーボール大会を開催する団体もあり、それらの独自の事業を積極的に支援している。

私の生涯学習

榎本 聡子

ずいぶん前になるが何かの書物で読んだ「人間は未完成の生き物。また死ぬまで完成し得ることはない。しかし、完成へ向けて努力することはできる。」こんな言葉だったと思う。その時は何気なく読み流していたが、最近この言葉が脳裏深くに焼き付いていることに気づき、完成に向けての努力こそ「生涯学習だ」と考えるようになった。

子どもの時から勉強をしているような境遇でなかった私は本能的とでもいうか、いつも「勉強したい」と考えるようになっていた。

そのままそういうチャンスもなく、結婚、子育て、夫の看病を終えたころには自分も病身になった。10年間の夫の看病が終わってしばらくして「何を目標に生きるべきか」の模索をしていた時に新聞に掲載されていた“健康生きがいづくりアドバイザー”のネーミングに魅かれ養成講座を受けた。毎日心臓の発作を起こしながら陸に上がった魚が水を得たがごとく学んだ。2年ほど活動したが心臓の発作の回数が増す中、思うように活動できなくて充実感を得ることがなく退会。これでは思うように何かの活動は無理と思いながらも何をすべきか模索をしながら目標がつかめず、心臓発作のためにベッドに潜っている日々。ある日、所用で区役所へ行ったら道民カレッジガイドブックに目が止まった。単発でも参加できる講座がたくさんあり、こんな私でも何かができるという希望がわいて歩みだしたのは平成18年の春であった。最初の1単位の判を押してもらった時の感動!!私のような病気がちでも体調に合わせてできることを見つけた喜び。そこからが私の本格的な学びが始まった。いつの間にか体力がついてきていた。道民カレッジの単位数も増え3,000単位になったところから「私の勉強は全くの雑学だけど何か系統的な勉強はできないか」と考えるようになってきたが折もよく放送大学が道民カレッジに連携されたので「できるところまでやればいい」と決心して教養学部に入學しよう4年生になった。うまくいけば来春は卒業できるかなと皮算用している次第だが卒業してもまだまだ学びたいことがたくさんあるので別のコースに進んでできるところまでやりたいと夢はどんどん大きくなって、人生の最期までの目標はできている。同時進行でAFPの資格も取得。応急手当普及員も。学んだことを活用しなければ“学び”を社会貢献に役立たせたとはいえないので、まだ大学のことで忙しいが今年2月から能力開発コースに連携していただき、道民カレッジ生の希望者にパソコン指導を始めた。指導をするということは自分のパソコンのスキルも再確認できるし、自分自身の学びになると思うのでこれだけは忙しくても継続していきたいと考えている。

パソコンスタディグループに参加されているみなさんのスキルが少し進んだら道民カレッジのパソコンの書類作成のお手伝いでもできたら、みんなで社会貢献できるとメンバー全員が楽しみに学んでいる。

『ほっかいどう学』かでの講座

会場 道民活動センター(かでの2・7) 〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目(820研修室(但し3回目は520研修室))

定員 120名(3回目は100名)当日、会場での受け付けもできます。

単位認定 道民カレッジの指定講座として必修1単位、または「ほっかいどう学」コース2単位のいずれか選択可。

受講料 1講座700円。全講座受講の場合は、6,000円。

*受講料は、受講当日に納入してください。(既に納めた受講料は、返納できません。)

1回目	5月16日(木) 10:00~11:30 『気候多様性から見た北海道の魅力』 フリーキャスター・気象予報士 菅井 貴子 氏	6回目	10月9日(水) 13:30~15:30 『やらなきやゼロ!』 夕張市長 鈴木 直道 氏
2回目	6月17日(月) 13:30~15:30 『江戸期と現代との北海道の海岸景観比較』 札幌市立大学 教授 吉田 恵介 氏	7回目	11月12日(火) 13:30~15:30 『剥き出しの地球 南極大陸』 写真家・ビデオジャーナリスト 阿部 幹雄 氏
3回目	7月6日(土) 9:45~11:30 『新聞・テレビの裏側』 毎日新聞論説委員 与良 正男 氏	8回目	12月16日(月) 13:30~15:30 『フルート演奏からみる呼吸・姿勢のありかたについて』 フルート奏者・講師 安保 奈苗 氏
4回目	8月5日(月) 13:30~15:30 『落語を楽しもう』 落語家 桂 枝光 氏	9回目	1月17日(金) 13:30~15:30 『スポーツと健康』 北海道大学病院 スポーツ医学診療科医師 北海道日本ハムファイターズチームドクター 横田 正司 氏
5回目	9月9日(月) 13:30~15:30 『北海道の温泉~温泉を利用した健康づくり~』 北海道大学 教授 大塚 吉則 氏	10回目	2月7日(金) 13:30~15:30 『家庭の省エネルギー』 環境省認定 環境カウンセラー 岡崎 朱実 氏

随想22

夏越しの酒肴

地球上には約175万種の既知の生物が存在し、地球の歴史や環境に応じて互いにつながり合って生きてるとされる。近年、よく聞かれる「生物多様性」はこれらの生き物の間に違いがあることを認めるといのものであろう。生物多様性条約は1992年に採択、日本は翌年に締結しているが、2010年に第10回条約締約国会議が名古屋で開催されてからは、日本国内での動きが活発化したともいう。

ところで、日本という国は南北に長く主に温帯～亜寒帯気候に属し、春夏秋冬のけじめが明瞭で過ごしやすいところである。とくにここ北海道はその感が強く、生活にメリハリが出ると感じているのは私一人ではあるまい。しかし今年の春はなぜか寒い日が続き、札幌の桜の開花は5月13日で、平年より10日遅かったと報じられた。これも生物多様性に何かしらの影響が出てくることは必至であろう。平成時代に入ってから地球温暖化とも反比例的に関係しているのであろうか。専門外の私にとっては不可解なことである。

そのような不可解の中にも日本の古来の伝統がある。それは6月30日という1年の前半の最終日

に当たる夏越しの節供（なごしのせつく）である。それは半年間のけがれを流す大切なお祓いで、各地の神社で行われているとされる。例えば民間伝承では、この日は河童（水神）が山から下りると言い伝えられ、水浴のみそぎが行われたともいう。またこの時期は田植えも終り、ホッと一息つける時でもあり、共に働いた牛馬にもみそぎをさせ、これからの暑さを無事に過ごせるようにと祈るのである。また、時節がら悪疫の流行期でもあるから、それを避ける目的もあったらしい。この日、もてなし用の食器や酒器なども、水に浸し、水気を払い、生気をよみがえらせ、そして、梅・フキ・ゴボウなど季節の材料をふんだんに使ったスタミナ料理をどっさり用意し、大いに酒を酌み交わしたとのこと。何と良き伝統であろう。夏越しの祓（はらえ）もまた邪神を和ませるために行う夏祓いであった。そこには必ず酒肴を伴うのが日本の良き伝統で、それを「夏越しの酒肴」と呼びたいと考えているのは私一人ではあるまい。人も生物多様性の中で蠢いているからには、古い伝統を大切にしたいものである。

（公財）北海道生涯学習協会
会長 宇田川 洋

事務局からのお知らせ

●生涯学習協会賛助会員募集

賛助会費：個人会員～1口 3,000円
 団体会員～1口 10,000円
 （個人・団体何口でも可）

会員の方には、会報「ほっかいどうの生涯学習（年4回発行）」を送付させていただきます。

振込先口座：郵便振替
 口座番号～02730-8-6754
 口座名～公益財団法人北海道生涯学習協会

※手数料のかからない振込用紙は事務局までご請求ください。

- ★ 賛助会費の「税制上の優遇措置」について
当協会に対する寄附金（賛助会費）については、税制上の優遇措置が受けられることとなりました。
詳しくはHP（ホームページ）をご覧ください。

この会報に投稿 してみませんか

- ・会員の皆様から会報に登載する記事を募集しています。
- ◇最近起きた出来事の紹介
- ◇私の主張（思い、訴えたいこと）
- などを、400字以内でご自由に投稿願います。

編集後記

『夢いつまでも』世界最高齢のエベレスト登頂記録の更新を果たした、三浦雄一郎氏の言葉です。本号に寄稿いただいた道民カレッジ6,000単位取得者の榎本聡子氏も『完成に向けての努力こそ「生涯学習だ』』とおっしゃっています。生涯をとおして『夢』を持ち『努力』することは、まさしく豊かな人生を送るうえでのキーワードなのかも知れません。ちなみに、私のような凡人は、第1線をリタイヤした後元気に過ごすためには、「教育と教養」が必要だと諸先輩諸氏からよく言わ

れました。「今日、行く所がある。」「今日、用がある。」ことが、元気に毎日を送る秘訣だということです。

『新しい自分との出会いや発見がきっとある』というこの会報のメッセージのとおり、これからもこの会報をとおして多くの方々との出会いや発見があることを期待しながら編集して参りたいと思っております。

本号に寄稿くださいました皆様に心からお礼を申し上げますとともに、「公益財団法人」となりました当協会を今後ともよろしくご厚意申し上げます。